

令和5年度「新図書室『えほんのもり』の設置」

【報告】

光塩女子学院幼稚園

1. 概要

新たに、保育室と同じ広さの図書室を設置。図書室内でクラス単位の司書による絵本読み聞かせの実施や、自由遊びの時間に個人で自由に絵本を選び、好きに絵本に触れられる空間を作り、子どもたちが絵本を身近に感じられる様、環境整備し、日々の保育でも活用する。

2. 目的

普段の保育室とは違う、非日常の空間で絵本に触れ、親しむことで、「読書」のもたらす言葉の広がり、深まり、想像（創造）する力、探求する力等を育てる効果を高める事を目的とする。保育の中でも図書室を活用することにより、今まで以上に絵本に触れる機会が増え、子どもたちが言葉や文字に興味を持ち、知らず知らずの内に、広がり深めていくことが出来る。

3. 内容

①図書室の設置

・保育室改修工事：

通常の保育室を図書室にする為の改修工事（ロッカー撤去・床補修・掲示板等）。

・絵本架設置：

幼稚園児でも自分で自由に見て手に取りやすい絵本架の設置。

「目で見て分かる分類」の為に、表紙が見える配架が可能な絵本架。

大きささまざまなサイズの絵本を分類に沿って配架する為、自由な高さに調節可能な棚板であり、且つ安心安全で丈夫な絵本架。

・その他空間づくり：

「NDC(日本十進分類法)」を元に、幼稚園児に分かりやすく、保育者が探し出しやすい分類・配架の工夫。豊富な掲示スペースの設置。

子どもたちがリラックスして絵本を楽しめる様、子ども用椅子・テーブル、マットを配置。

・展示の工夫：

子どもたちが興味を持つ様な工夫を凝らした展示、掲示を季節毎に展開。

②設置後の保育での活用

・司書による図書室での絵本読み聞かせ：

クラス単位で非日常空間での絵本読み聞かせを各クラス月2～3回実施。

・図書室の開放：

自由遊びの時間に司書または図書担当教員を配置し、年長の子どもへ図書室を開放。

・日々の保育での活用：

読み聞かせだけでなく、クラス単位で図書室へ行き、自由に絵本を読む、友達同士で読み合う等、図書室で好きに過ごせる時間を設定。

司書と連携し、行事毎に、関連する絵本を探しに行く等子どもたちに調べる楽しさを教えている。

・全園児対象に絵本の貸出：

通常、貸出は年長のみが対象のところ、冬休み前に全学年対象に貸出を実施し、子どもたちが自分一人で絵本を選ぶという体験をした（年少・満3歳児は保護者同行）。

・同窓会で開放：

昨年度卒園児の同窓会や、卒園生を招いた光塩ファミリーデーで図書室を開放し、絵本読み聞かせ等を実施。

4. 取組開始時期

- ①令和5年4月～
- ②令和5年5月～

5. 成果

保護者アンケートでは、「図書室『えほんのもり』の環境整備やお子さまへの読書活動（読み聞かせ等）が充実してきたように感じるようになりましたか」という設問に対し、85%の人が「あてはまる」を選択し、「ややあてはまる」を含めると98%の保護者が効果を感じているという評価を得ることが出来た。

年長の子どもたちは、日頃の自由遊びの時間に図書室でも過ごすことが可能になった。絵本を借りるだけでなく、その場で絵本を読んだり、くつろいだりしている。また、お気に入りの絵本や読んでもらいたい絵本を司書や図書担当教員に読んでもらう等、思い思いに活用している様子が見られる。

幼稚園で図書室を活用していることにより、「家庭でも図書館に行く様になった」、「絵本に興味を持つ様になった」という声や、幼稚園で借りた絵本を夏休みや冬休み中に親子で一緒に読んだり、弟妹の為に絵本を借りたり、幼稚園で教わったことの振り返りや家族のふれあいの時間に活用されたという声も聞かれた。

また全園児対象に貸出を実施したことで、学年により異なる、借りる本の傾向が分かり、今後の絵本の整備にも役立てる事が出来る。

今後の課題としては、年長以外の学年への貸出の機会を増やし、それにより必要な環境整備を引続き行っていく。また、活動の様子を保護者へ積極的に伝えていきたい。

6. 活動の様子

①図書室の設置

●旧図書室



●新図書室「えほんのもり」



②設置後の保育での活用

●司書による図書室での絵本読み聞かせ（クラス単位の図書室活用）



●年長へ開放



●全学年対象に絵本の貸出



●同窓会・光塩ファミリーデーで開放



●幼稚園ホームページで情報発信

<https://www.koenyouchien.ed.jp/about/library.html>



光塩幼稚園では、2022年度より、今まで以上に、読書活動を進めています。

「えほんのもり」には、約2000冊の絵本や図鑑があり、日常、幼稚園で生活している保育室とは異なったお部屋になっていて「ほんがいっぱい」「もっともっとたくさん絵本や図鑑を見ていたい」と、子どもたちのお気に入りのお部屋になっています。

「読書」は、言葉の広がり、想像（創造）する力、探究する力等、子どもの心を動かす魔法の力をもっています。そして、「えほんのもり」という読書環境を作ることは、子どもたちにとって、とても重要な役割をもっています。

私たちは、人に何かを伝えるときには、「言葉」や「文字」等で伝えていきます。そのためには、言葉の豊かさや広がり、深まりがとても大切です。

幼児期には、言葉を習得していく一番大切な時期と言われています。この時期に、「読書」を進めていくことは、より多くの言葉に出会い、想像（創造）し、先生やおもだちとかわかることにより、今まで見たことのない世界に誘います。この経験を繰り返すことにより、まわりの人たちに自分の気持ちを言葉で伝えていくことの喜びを感じたり、伝え合うことにより自分が知らない言葉に出会ったりと、言葉で伝えることの大切さを感じ、言葉の広がり深まりを知らず知らず学び、文字にも興味をもっていきます。

子どもたちが、言葉や文字に興味をもち、知らず知らずの間に広がり、深めていけるのが「えほんのもり」なのです。



幼稚園には珍しく司書があります。

図書室の運営・担任へのアドバイスの他、読み聞かせ、お話しなども定期的に行っています。



7. 学校関係者評価

・「えほんのもり」の設置により、図書室の充実が図られたことを非常に高く評価する。絵本に親しむという幼稚園時代の幸せな思い出が、生涯に渡って心の支えとなることはそれ自体素晴らしい意味を持つが、幼稚園で培われた本への愛が生涯続くようなアプローチへと繋がられたら良い。

・司書と連携して「えほんのもり」の活用が進んでいる事がわかった。幼稚園で図書室に子どもが自由に入出りできるというのは素晴らしい取組みだと思う。

・今年度「えほんのもり」を活用する仕組みが出来たので、今後は学年毎に読書活動の年間計画を作成し、日々の保育内容と繋げて行くことを期待する。

・「えほんのもり」の充実した運営実施は今年度の目玉だった。学年問わず楽しそうに過ごしている姿が見られた。行事に関係する本を借りたり、興味のあるものを手に取れたり、本を好きになる要素が沢山あると感じる。豊かな絵本読み聞かせや読書習慣は子どもたちにとって一生の宝物だと思う。この取組は継続してほしい。

・たとえ読まなくても、手に取ったり、絵を見たりして本に親しむ環境は後の成長に大切だと思う。直接今、結果が見えなくても、卒園後の長い人生の糧となる様な取組が素晴らしい。